

氏名	志 水 浩
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 2 0 号
学位授与の日付	昭和37年 6 月 6 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	保存血大量輸血に伴う血液凝固障害に関する研究
論文審査委員	教授 砂田輝武 教授 陣内伝之助 教授 児玉俊夫

学 位 論 文 内 容 要 旨

保存血大量輸血に伴う血液凝固障害は近年注目をあびてきたが、その成因或は対策については未解明の点が多い。

著者は血液凝固障害の発現が保存血輸血自体によるものか、輸血以外の要因に原因を求めべきか、また単独の凝固因子障害のみで発現するものかを実験的に検討した。この結果、血液凝固障害は単独因子の障害により発現するものではなく、種々の凝固因子障害が複雑に結合して起り、大量保存血輸血自体により血小板の数的質的低下が惹起され、これに手術侵襲、ショック、アノキシヤ、肝障害などの要因が加わって血液凝固障害が増強され、出血傾向の発現を促すとの結論を得た。

さらに、血液凝固障害発生の予防とその治療に関し臨牀的、実験的に検討し、血液凝固障害発現後の治療には多種の薬剤或は処置を施しても困難であることが多いので、大量輸血が予想される場合、或は保存血輸血中に出血傾向発現を促進する要因が加わった場合には、ただちに種々の予防的処置を講ずるのが最善の策であるとの結論を得た。

- 第1編 血液凝固障害発現の成因に関する実験的研究
(昭和35年1月 岡山医学会雑誌 第72巻第2号に掲載)
- 第2編 血液凝固障害発生の予防とその治療について
(昭和35年1月 岡山医学会雑誌 第72巻第2号に掲載)

論文審査の結果の要旨

志水浩提出の「保存血大量輸血に伴う血液凝固障害に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

保存血大量輸血に伴う出血傾向の発現は時として患者を致死せしめることがあり、臨床上極めて重要な問題であるが、その成因は単一なものではなく、その成因の一つに血液の凝固障害も関与していると思われ、この論文はその点を研究したものである。大量輸血を行った臨床例並びに実験動物について凝固に関係ある各種検査を広汎に行い、凝固系に起る主な変化として血小板の数的並びに質的低下、それに伴うトロンボプラスチン生成の低下、AHG, PTC の減少、フロトロンピン及び不安定因子の減少があり、これらは保存血輸血自体によって起るものであり、これに手術的侵襲、アノキシア・ショック・肝障害等が加わると凝血障害は一層増強するが、この凝血障害のみでは出血傾向は惹起されず、これに血管因子その他の障害が組合わさって出血が発現するものとしている。この予防対策としてハイドロコチソンの大量点滴静注新鮮血輸血、血小板輸血、トロンボプラスチン製剤の投与等が有効であるが、一旦発現した凝血障害は是正することは困難であるので予防的処置が最も有効な対策であると結論している。

以上の通り本論文は、新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有するものと認める。